

058

平成 30 年 7 月豪雨で被災したアパート を地域の防災拠点住宅に再生する 「サツキ PROJECT」

取組主体

三喜株式会社（ぶどうの家）

従業員数

70 人

想定災害

豪雨等

実施地域

岡山県

- 平成 30 年 7 月豪雨で被災したアパートを、地域の住民が互いに支え合って生活でき、災害時には避難場所として利用できる共同住宅に改築。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

「垂直避難」できる住宅で、支援を必要とする地域の高齢者の命を守る

- 平成 30 年 7 月豪雨で浸水被害を受けた岡山県倉敷市真備町地区では、亡くなった方のうち 9 割が 65 歳以上の高齢者だった。同地区にある小規模多機能ホーム「ぶどうの家」の利用者も自宅で犠牲になった。
- 同施設の代表は、高齢者等支援を要する人々が安心して避難できる施設の必要性を痛感した。さらに、地域防災の専門家を招いた被災者との住まいに関する勉強会等を通じ、建物の高層階へ避難するいわゆる垂直避難ができ、日頃から安心して避難できる場所が身近にあれば命は守れると考えようになった。
- そこで、屋上までスロープで上がることができ、発災時には避難場所として利用できる共同住宅と、暮らし方の工夫をセットにした考え方を実践する「サツキ PROJECT」を開始した。この避難機能付き共同住宅は、3 階以上の共同住宅とし、1 階にコミュニティルーム、2 階以上に居室を置き、屋上までのスロープを設置することに加え、コミュニティルームでは日頃から住民同士の顔の見える関係を作り、互いに気かけあった暮らしを行うことで、助け合いができるようにするというものである。

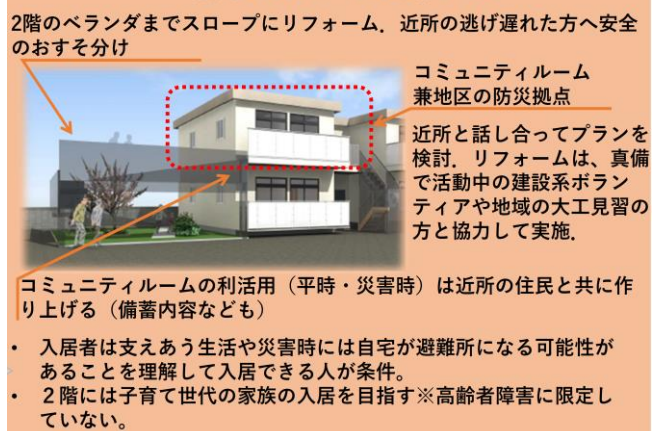


平成 30 年 7 月豪雨直後の真備町の様子

平成 30 年 7 月豪雨で被災したアパートを改修

- 同プロジェクト発足後、平成 30 年 7 月豪雨で被災し 1 階が水没したアパートの所有者から、アパートを同プロジェクトで利用できないかとの申し出があった。同アパートは 2 階建てだったため、2 階までのスロープを付け、そこをコミュニティルームにして、1 階も含め、それ以外の部屋を住居にするというプランに変更した。
- 改修費用は、同プロジェクトが国土交通省の「人生 100 年時代を支える住まい住環境事業」に採択されたため、3 分の 2 は補助を受け、足りない費用の一部はインターネットで資金を募るクラウドファンディングを利用して収集することで工面した。
- 避難機能付き共同住宅は令和元年度中の完成を目指しており、令和 2 年春から 7 世帯が入居開始予定である。

被災したアパートの改修プラン



地域の住宅を工夫して利用することで、理想に近い環境を実現

暮らしの中で、お互いが支え合える工夫

- 認知症の人の家族は他の避難者に迷惑をかけることを、寝たきりの人を介護している家族はお互い交換等を公衆の面前ですることを気にして、避難所への避難をためらう傾向にある。このため、日頃から互いに気にかけてあった暮らしを共同住宅の中だけでなく地域で行っていくことが重要である。
- そこで、同プロジェクトは、病院の付き添いやごみ出し等の「ちょっと困ったこと」を地域の住民同士で支え合う有償ボランティア（交通費等の活動経費や謝礼金の支払いを受けるボランティア）を立ち上げた。この取組を通じて日頃から地域の人同士が顔見知りになることで、災害時に支援を要する人も安心して避難ができ、避難をためらって命を落とすことのないようにすることを目指している。



合併前の旧真備町の町花であり、「洪水の後に美しく咲く」と伝えられるサツキにちなんで名付けられた

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 避難機能付き共同住宅のコミュニティルームは、日頃から地域の住民が集い、防災等に関する研修等を行う場として開放する。コミュニティルームの入り口にあるスロープは防災拠点としてのシンボルとし、住民は、平時も災害時もスロープを使用してコミュニティルームに出入りする。また、スロープを観客席に見立て、その真ん中でミニコンサート等の楽しめる企画を行う予定である。

3 現状の課題・今後の展開等

- 同施設の代表は、今後も「避難機能付き共同住宅」と「住民同士が支え合う暮らし方」がセットになったこの考え方を全国に発信し、広めていきたいと考えている。

4 周囲の声

- 被災して、何もすることができなくなってしまったとぼんやりしていたが、ボランティア活動を通じて何かすることがあって幸せだと思うようになった。（有償ボランティア）

担当者の声

- 平成30年7月豪雨により岡山県真備町は被災しました。元々まちづくりが盛んだったこと、真備の福祉医療の事業所が高齢や障がい等のジャンルに関係なく緩やかに連絡会としてつながっていた基盤があったことが奏を功し、現在、復興に向けて日々前進しています。
- サツキPROJECTの考えを多くの方に知っていただき、日本中にサツキの花が咲くように、避難機能付き共同住宅が増えていくことを願っています。

問合せ先

三喜株式会社（ぶどうの家）
TEL：086-552-2171 FAX：086-552-2181 E-Mail：sanki2171@gmail.com

動画

